

2012 年度

事 業 報 告 書

学校法人 鎮西学院

長崎県諫早市西栄田町 1212 番地 1

7	スタディサポート	長崎県立こども医療福祉センター（永昌東町）	太田・菅原 良子・開	通年	8	6
8	学童保育支援	ほくしょうクラブ、わんぱくキッズ、西諫早クラブ	開浩一	前期	8	3
9	子どものケア	諫早市少年センター、ウエスレヤン・コミュニティカレッジ	開浩一	前期	8	5
10	プロサッカークラブの運営にたずさわろう！	V・ファーレン長崎の試合会場設営、運営補助	佐藤茂春	通年	7	7
11	スマイルリボンながさきの活動支援	主に大学	村上清・太田勝代	通年	10	6
12	Library 学びのカフェ I、II（開講予定）	長崎ウエスレヤン大学 附属図書館	亘 明志	通年	10	11
13	日中韓観光資源発見スタディプログラム	本学、雲仙市ほか	佐藤快信・高山乾忠他	通年	10	16
14	オープンキャンパススタッフ（学生広報スタッフ）	学内・学外・マスメディア等	島崎 英明	通年	8	11
15	精神保健福祉活動支援	精神保健福祉活動支援	山口弘幸	通年	5	1

【体育系部活動の主な成績】

クラブ名	大会名	結果
バレーボール部 (男子)	九州大学春季バレーボールリーグ(鹿児島)	3部6
	九州大学秋季バレーボールリーグ(大分)	4部4位
	ウエスレヤンカップ男子バレー大会(本学)	3位
バレーボール部 (女子)	九州大学春季バレーボールリーグ(沖縄)	6部5位
	九州大学秋季バレーボールリーグ(熊本)	6部Bパート4位
	長崎県大学女子バレーボール大会(長崎)	4位
卓球部(女子)	全九州春季卓球大会(熊本)	女子シングルス14位 熊川菜月
	全九州秋季卓球大会(福岡)	女子シングルス13位 熊川菜月
	3地区(九州・中国・四国)卓球選手権大会(広島)	女子シングルス 熊川菜月出場
卓球部(男子)	全九州春季卓球大会(熊本)	4部5位、男子ダブルス松木・内田組 3回戦進出

	全九州秋季卓球大会(福岡)	4部4位 男子シングルス松木慎平 4 回戦進出
	全九州新人卓球大会(福岡)	男子シングルス 松木慎平 ベスト16
軟式野球部	Exciting Baseball トーナメント in 島原	準優勝
	Exciting Baseball トーナメント in 阿蘇	9位
	Exciting Baseball トーナメント in 青島	4位
バドミントン部	全九州学生バドミントン大会(大村)	男子団体戦(2複3単)楠、伊藤、松永、 村里、増永、古場 出場。
	長崎県近県バドミントン大会(県立大)	男子団体出場
	男子シングルス・ダブルス出場	男子シングルス、ダブルス 出場
体操競技部	第60回九州学生体操競技選手権大会	個人6位、寺田 琴音
	第62回西日本学生体操選手権大会	31位 寺田 琴音 *全日本学生体操 選手権大会出場決定
	第66回全日本学生体操競技選手権大会	28位 寺田 琴音
	第55回九州学生体操競技新人大会	1位 寺田 琴音

4. 学生募集の状況

入学定員の確保 達成状況 2013年度 入学定員充足率: 60.0 %

収容定員の確保 達成状況 2013年度 収容定員充足率: 60.0 %

1) 概況

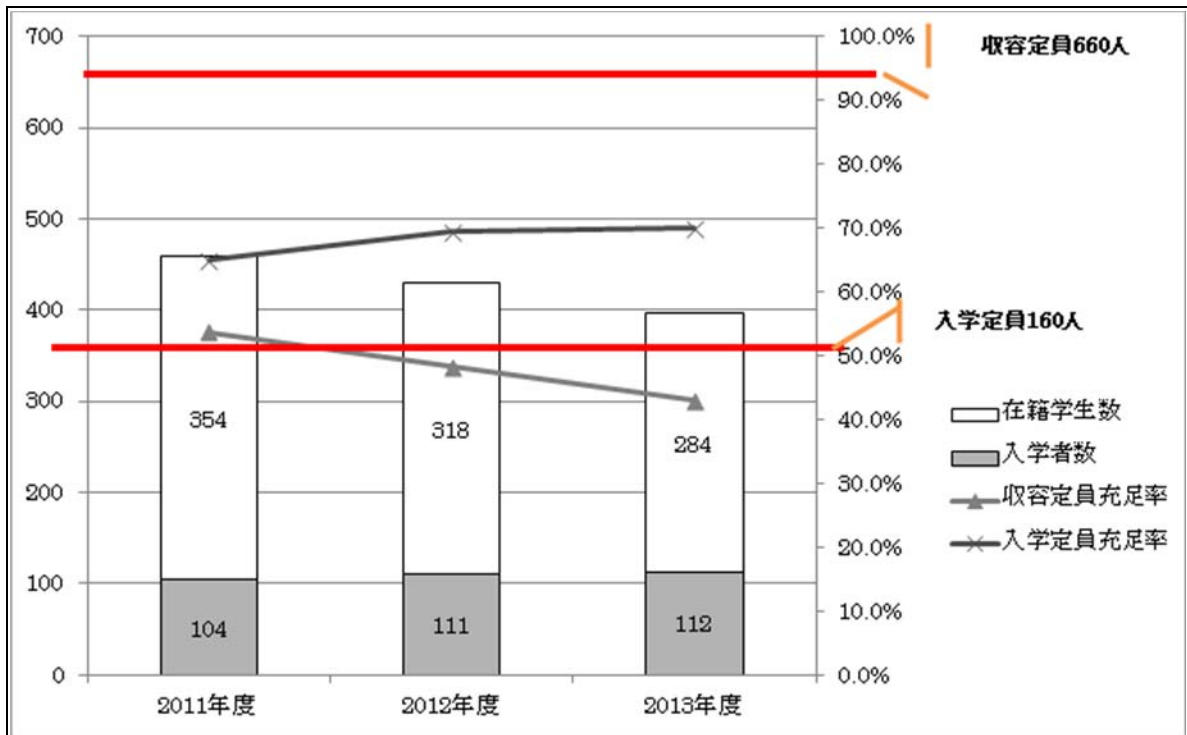
今年度の学生募集は大変厳しい結果となったが、新たな特待制度の導入により、一般入試における進学校からの志願増は、次年度募集活動の基盤へと繋がることができたと思われる。

また、重点的な周知活動により、慢性的な認知度不足解消への足掛かりがつかめた1年であった。

ただし、定員確保は急務であり、各学科を中心とした募集活動を展開し「魅力ある大学」・「受験生や保護者に選ばれる大学」を目指し、現在の大学選びに欠かせない条件である就職力のアップや退学率の減少など、各部署との連携を図りながら募集活動を進めることが今後の課題である。

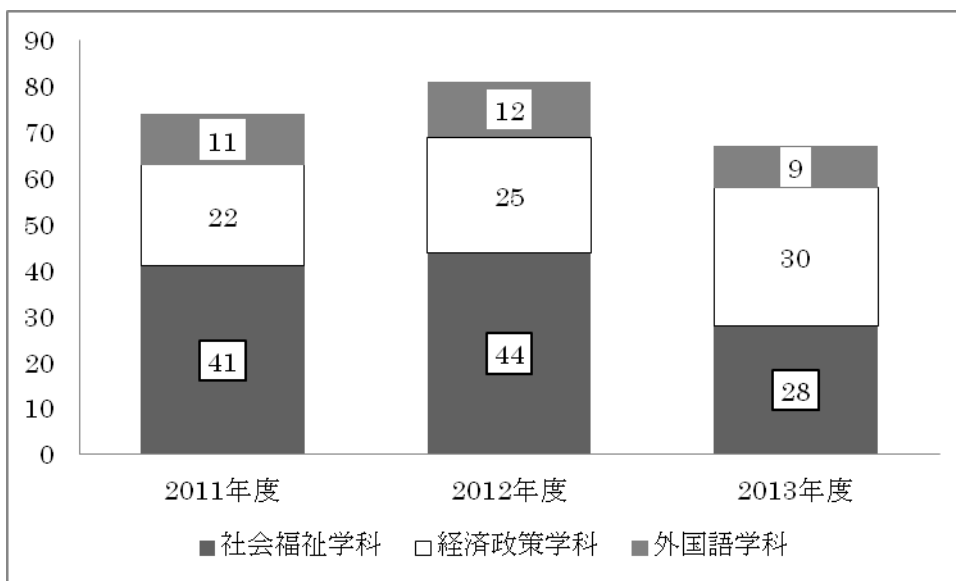
(定員充足率の推移)

	2011年度	2012年度	2013年度
在籍学生数	458	349	396
(収容定員充足率)	(69.4%)	(52.9%)	(60.0%)
入学者数	120	125	96
(入学定員充足率)	(75.0%)	(78.1%)	(60.0%)



2) 学生募集の状況(学科別)

【2013年度 学生募集(1年次 日本人学生のみ)】



(1) 社会福祉学科

昨年度入学者数から激減(44→28)。医療福祉コースも苦戦しており、国家試験合格者数の影響は否めない。推薦入試での比率が高いことを考慮すると、他学科より早い時期の広報の徹底が必要である。また、福祉系の高校や学会との連携を深めることも重要かと思われる。

(2) 経済政策学科

県内私立文系(特に男子)の受け皿としての位置づけが確立された1年であった。特に一般入試における出願者数が大幅に増加し(13→22)、入学者も昨年度より増加している。スーパー特待生も全体の62.5%を占めており進学校からの入学者が多いことから、今後の成長が期待される。

(3) 外国語学科

全国的にも語学系の志願者は減少しており、厳しい状況が続いている。他大学との差別化を図るためにも海外プログラムの積極的なアピールなど、学科の特色を打ち出した募集活動が必須と思われる。

(4) 広報活動

- 進学説明会での学習成果発表、オープンキャンパスの企画運営等、在学生と卒業生との協働による広報活動を展開した。オープンキャンパス参加者のうち出願者は17人だった。
- コミュニティFMの番組企画、長崎空港への出展、コンビニやJR駅構内等のパブリックスペースでの看板設置等、認知度を上げる基盤的な広報活動も展開した。

【オープンキャンパス集客状況推移】

	2010 年度	2011 年度	2012 年度
高校生計	60	63	58
高3	41	44	29
高2	4	6	6
高1	0	0	1
運動部企画	15	13	22
社会人・その他学生	6	8	9
シニア	2	0	6
一般(保護者他)	17	20	30
合計	145	154	161

3) 留学生募集の状況

(1) 概況

東日本大震災による留学生の減少は、一旦落ち着くかと思われたが、尖閣諸島問題による政情不安により中国人留学生の減少が目立った。

2010年度より開始した留学生の10月受け入れであるが、協定に基づく短期留学生、私費留学生が倍増したものの目標人数(30人)には達しなかった。

尖閣諸島問題の影響は、2013年度4月受け入れ留学生の募集を直撃し、修学期間2年以上の長期留学生は激減する結果となった。

(2) 今後の課題

アジアにおける学生募集は、アメリカ・ヨーロッパ・オーストラリア等、英語圏の大学の進出により、グローバルな競争市場となっており、日本経済の弱体化に伴い、日本語人気も陰りを見せている傾向にある。

こうした外部環境のなか、中国一国のみを頼りにするような募集活動では、優秀な留学生の一定数の確保は望めない。中国、韓国はもとより、アジア新興国全域での交流ネットワーク構築が必要

であり、これまでタイやフィリピンで培ってきたネットワークを基盤に、新たな協定大学の拡大が急務となっている。

2013年度の4月受け入れより、ネパール、ベトナムより日本語教育プログラム科目等履修生をそれぞれ30人、計64人受け入れた。アジア新興国とのネットワークの拡大の契機としたい。

いっぽうで、優秀な留学生を獲得するためには、生活支援の基盤整備と、教育プログラムの魅力アップ、キャリア支援・就職先の確保が必須となっている。

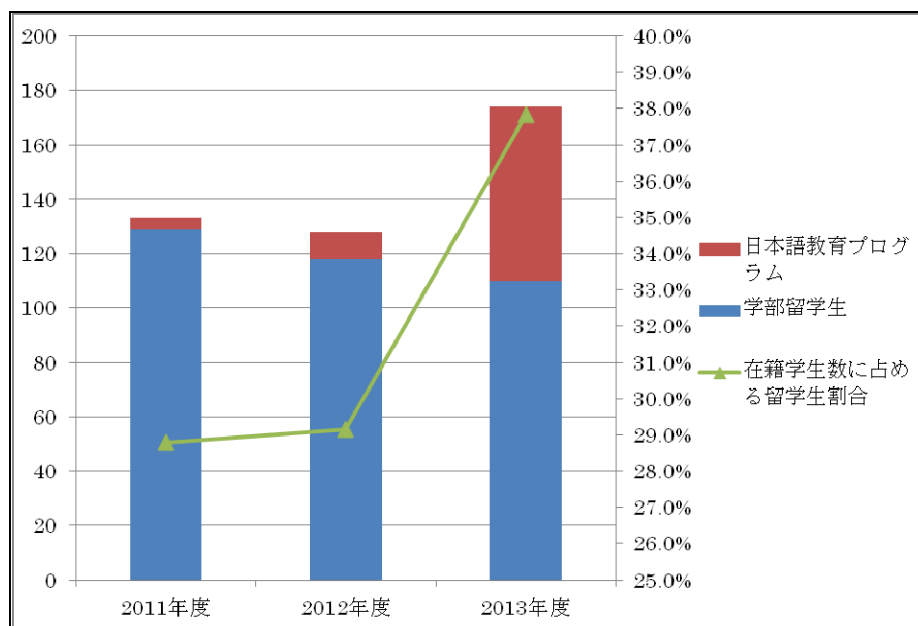
【10月入学留学生推移】

	2010年度	2011年度	2012年度
1年次計	11	10	19
(内訳) 協定による短期留学生	2	5	10
協定による長期留学生		3	0
その他私費留学生	9	2	9
3年次計(協定による編入学生)	6	2	4
交換留学生	-	4	3
学部生計	17	16	26
日本語教育プログラム科目等履修生	9	5	1
合計	26	21	27

【4月入学留学生推移】

	2011年度	2012年度	2013年度
長期留学生	31	30	11
短期留学生	15	18	18
計	46	48	29

【在籍学生数に占める留学生数の割合 日プロ含む】



5. 財務

1) 目標の達成状況 2012年度決算(案) 帰属収支差額: △1億5千6百万円

(参考)

学生1人当たり収入【(学納金+補助金)÷在籍学生数】≒120万円

消費支出÷学生1人当たり収入≒521人 ← 在籍学生数から見た損益分岐点

2) 黒字転換に向けて

- 5カ年の計画を実現するためには、最初の2カ年にあたる2012年度、2013年度に教育改革を進め、学生の満足度が学生募集に結び付くような大学運営の好循環の定着を実現し、入学定員の充足を達成したい。
- 私学助成のルールでは、収容定員の50%を割る場合、補助金不交付となる。不測の事態を防ぐため、2014年度学生募集より、経済政策学科の収容定員の見直しを行う。
- 2013年度予算編成は、多額の銀行借入金による経営を余儀なくされており、引き続き厳しい予算統制を行う(人件費の抑制)。
- とはいえ、支出の削減も限界にきている。特に人件費については、定期昇給ストップ、賞与なしの状態が続いており、教職員の生涯賃金はもとより、退職金や年金への影響が危ぶまれ、労働意欲の減退につながりかねない状態であり、法人として何らかの判断が必要となっている。

6. 主な教育研究活動

<2012年度累積 GPA 学年別平均>

	年度	1年	2年	3年	4年
平均	2012年	2.41	2.18	2.1	2.39
	2011年	2.45	1.99	2.29	2.32
最高	2012年	4	3.77	3.73	3.7
	2011年	3.88	3.86	3.67	3.65
最低	2012年	0.19	0.13	0.51	0.75
	2011年	0.23	0.29	0.68	0.86

<学長賞・成績優秀賞>

学長賞・・・卒業時に4年間で卒業要件を全て充足し、かつ累積 GPA が 3.50 以上の上位の者、若しくは学期毎に、20 単位以上を修得し、かつ累積 GPA が 4.0 以上の者 4年生 3人
 成績優秀賞・・・学期毎に、20 単位以上を修得し、GPA が 3.50 以上の者

1年	2年	3年	4年
4人	7人	5人	3人

<各学科の取り組み>

社会福祉学科

- 第15回高校生福祉フォーラム・・・11月18日開催。参加状況;163人(うち高校生69人)。高校生福祉大賞コンテストを開催。高校生10団体によるプレゼンテーションコンテストを開催。第2部は、ウエスレヤン ライト アンサンブルによる演奏、グループ対抗会場トーク&クイズバトルを開催。音楽やクイズを通して福祉サービスのあり方を楽しく学んだ。
- 第9回九州地区福祉系高校教員研究セミナー・・・11月17日開催。参加状況;81名(うち高校教員17人)。文科省福祉教育に関する専門官を講師に迎え、福祉教育に関する最新の動向について講演いただいた。九州圏内の福祉系高校教員が多数参加し、介護職員初任者研修や実務者研修等、制度の改正に伴い、各高校が抱える問題・課題、高校福祉教育の方向性について、意見交換を行った。
- 医療事務関連講座がスタートし、長崎県医療ソーシャルワーカー協会の全面的バックアップのもと、病院実習を取り入れた特色あるプログラムを実施し、医療福祉の現場から一定の評価を得た。
- このほか、卒業生を中心とした社会福祉学会の開催、福祉系高校への教員派遣などに取り組んだ。

経済政策学科

- 学生の企画運営による宿泊研修を開催。多学年の縦のつながりはもちろん、学生のファシリテーション能力の向上が見られた。
- 「学びの翼事業」への予備調査の一環として、タイCSPにおいて、参加学生への派遣費の助成を行った。
※「学びの翼事業」・・・タイCSPへの学生参加経費に対する寄付金事業。
- 野村証券との連携により、授業へのゲスト講師を招へいた。今後の産学連携による冠講座へ向け継続して取り組む予定である。

外国語学科

異文化理解プログラムを留学生と本学日本人学生の共同企画により実施。

- May Fiesta・・・5月21日開催。各国フードコートや語学教室、ゲストによる多彩なライブパフォーマンスなど。学生スタッフ60人による運営により、来場者数約300人を動員。
- International Café・・・06年度より毎月1回開催。アメリカ、カナダ、ブラジル、タイ、フィリピン、中国、韓国、台湾、毎回、留学生の母国であるいずれかの国をテーマに異文化体験プログラムを開催。多数の高校生及び一般市民の参加を得た。
- 留学生の祭典・・・7月開催。各国の留学生による歌や踊り、民族楽器の演奏といった伝統文化を披露し、一般市民も多数参加した。
- International Talk show, Speech Contest・・・11～12月に実施。留学生を交えた異文化理解についてのフォーラム及び本学学生による英語による各種発表を県内高等学校英語担当教員により審査。
- English Boot Camp・・・8月と2月に実施。Reading, Speaking,そして語彙を含んだ集中英語プログラム。

<障害学生の在学状況>

聴覚障害学生	肢体不自由学生	その他	計
0人	5人	0人	5人

全介助学生が2人在籍中。継続して、介助支援員を学期中常時2人雇用した。

<地域連携>

NICE キャンパス コーディネイト科目「諫早学構築へのアプローチ」全15回
 実施時期;2012年10月3日～2013年1月30日 毎週水曜 18:00～19:30 開催
 一般市民受講者数;のべ394人

科目等履修生の受入状況

前期・後期 計35名 (スピーキング、英語コミュニケーション、中国語発音、死生学等)

※日本語教育プログラム受講生を除く。

受託調査・事業

調査・事業名	委託元	金額
まちづくり研究室・生涯学習室の運営	諫早市	—
大村市景観資源調査事業	大村市	1,680千円
島原半島ジオパーク学術研究奨励事業	島原半島ジオパーク推進 連絡協議会	150千円
計		1,830千円

<高大連携関連事業報告>

福祉フォーラム等の三学科の趣旨に即した高校生のライフデザインに関するコンテストやフォーラムを開催するとともに、高校における進路指導の動向や、高校生の進路選択についての調査研究を継続して行なった。特に鎮西学院高等学校との高大連携については、継続的な教育プログラムを行った。

高等学校スポーツ部活動の応援

従来の企画「ウエスレヤンカップ」において、テニス部とバレー部を対象に実施。また、夏のオープンキャンパスでも、スポーツ部対象の企画を実施した。

<学術研究>

個人研究費の配分状況

2012年度の個人研究費については、財務逼迫の折、昨年同様150千円の配分となった。

共同研究費の配分状況

2012年度より、特定研究として初年次教育プログラムの見直しに関する調査研究が採択された。

また、準研究員(学生)、特別研究員(事務職員)制度が整備され、これらの研究員の共同研究への参加が可能となった。

研究代表者	職位	共同研究課題一覧
裴 瑢俊	准教授	初年次教育を中心とした本学教育プログラムの体系化
草野洋介	教授	動脈硬化の形成の生理的多型性に、葉酸摂取が与える影響
高山乾忠	教授	日中韓大学連携による地域貢献型国際交流教育プログラムの開発
裴 瑢俊	准教授	日中韓大学間連携による東アジア型福祉教育に関する研究
占部尊士	准教授	地域リハビリテーション実践におけるソーシャルワーク的アプローチの実証研究
村上 清	教授	対馬地域における HTLV キャリア・ALT・HAM の生活実態調査研究
鈴木勇次	教授	離島架橋に伴う住民の意識変化に関する実証研究
南 慎郎	特別 研究員	私立大学の社会的機能に関する研究
佐藤茂春	准教授	社会的習慣形成としての関係的契約の分析：繰り返しゲームと進化ゲームによる理論分析と経済実験による実証研究
中野伸彦	教授	新カリキュラムに対応したソーシャルワーク実践の教材開発と活用法に関する研究

科学研究費補助金の獲得状況

2012年度の科学研究費補助金は、新規採択が2件、研究分担金が2件、継続1件であった。また、2012年度の科研費申請件数は4件であった。

鎮西学院高等学校

鎮西学院高等学校 2012年度事業報告

校長 川村 正徳

1 教育の充実

(1) 建学の精神である「キリスト教人格教育」の推進

- ・2012年度目標聖句「主に望みをおく人は、新たなる力を得、鷲のように翼を張って上る。」が与えられた。少子化による生徒数の減少、公立高校の無償化、難しくなっている生徒や保護者対応など私学を取り巻く環境は年々厳しさを増しているが、どのような困難の中にあっても、私たちの未来には神様によってそなえられている希望の道があることを礼拝や宗教行事を通して学ぶことができた。
- ・活水学院より移設した「校訓の碑」や鎌田 恵務氏より寄贈された「長崎（竹の久保）の十字架」を、本学院が歩んできた歴史や悲慘な被爆の体験を継承するものとして、大切に保存していきたい。
- ・「知育、徳育、体育」に力を注ぎ、バランスのとれた教育を行うように努めた。
2012年度高校総体では、卓球男女、体操女子、サッカー女子が優勝を果たし、優勝旗4本を獲得することができた。これは長崎県最多タイ記録であり、学院始まって以来の快挙である。また、進路実績においても国公立大学28名合格、公務員現役合格4名、就職内定率100%を達成することができた。

(2) キリスト教教育

- ・毎日の礼拝、物故職員記念礼拝、1年生夏期修養会（2泊3日、雲仙）、平和祈念礼拝を実施することにより、学院の建学の精神を深く心に刻む機会とすることができた。本学院の苦難の歴史と平和の尊さを学び、現在の学院が多くの犠牲の上に成り立っていることを再確認することができた。また、市民クリスマスを実施することにより鎮西学院の存在をアピールすることができた。
- ・教師修養会（1泊2日、講師：同志社国際中学高等学校牧師 山本真司師）において、「主と共に生きるようになるために」と題してキリスト教学校に奉職する者の使命について学びを深めることができた。

(3) 国際交流

- ・ロータリークラブとの連携により、アメリカとカナダからの留学生を受け入れた。
- ・シンガポール・マレーシアへの修学旅行を通して、異文化を体験し、国際理解を深める機会をもつことができた。
- ・イングリッシュバイブルクラスや校内英語スピーチコンテストを実施し、英語力向上に努めた。
- ・中国や韓国などアジアの国々との交流を目標に掲げたが、日本を取り巻く国際状況が不安定なことから、積極的に働きかけることができなかった。

(4) 学校力強化

- ・生徒保護者による学校評価・授業評価
生徒による学校生活に関する評価は、8割以上の生徒が満足・やや満足という結果であった。

授業に対する取り組みについては「ベル着」「授業準備」を年間目標に掲げて取り組み、一定の評価を得た。一方、予習復習への取り組み、学習の習慣化が定着していない生徒が多く、十分な底上げがなされていない。生徒の能力に大きな差があり、さらにきめ細かで個々の能力に応じた指導の実践が必要である。

- ・教職員による学校自己評価の公表について
職員会議で報告し、常時閲覧できるよう校内共有サーバーに掲載、また学校ホームページで公表する。
- ・不登校の生徒が年々増加する傾向にあるため、家庭訪問等保護者との連携を密に行ってきた。
- ・eラーニング自立学習支援システム「すらら」を英語の授業に導入し基礎学力の向上に努めた。今年度より基礎学力主任を配置し、全校生対象に「マナトレ」を実施するなど、さらに基礎学力の向上に努める。
- ・キリスト教学校教育同盟主催の各種研修会（新任教師研修会、夏期学校、全国中高研究会）、カウンセラー研修会、進学指導研修会（予備校での研修を含む）には積極的に参加するよう努めた。
- ・パソコンを用いた朝会連絡を実施するようになり、朝会の時間短縮が可能となった。

(5) 学習指導・進路指導の充実

・進学支援

進学説明会や各大学の入試説明会に積極的に参加するためのプログラムを計画した。また、授業の充実を図ったり、早朝・放課後補習や夏期雲仙学習合宿の強化、予備校を活用し教員の進学指導力向上を図り進学率向上に努めた。

九州大学（理学部）1名、神戸大学（工）1名、広島大学（経済）1名、長崎大学3名など国公立大学28名、私立大学は早稲田大学（教）1名、青山学院大学1名、同志社大学1名、西南学院大学2名、福岡大学4名をはじめ合格者150名を出すことができた。

・就職支援

公務員に現役16名合格（諫早市役所1名、県央消防署2名、佐賀県警1名、自衛官12名）、一般企業を含め就職率100%を達成することができた。これまで、公務員受験に対しては公務員対策講座を設けるなど力を入れてきたことが、徐々にその成果が表れてきている。

(6) 生徒指導

- ・携帯電話（スマホを含む）による事故や事件が多発していることから、本校では携帯電話の所持を禁止とし、携帯電話による「いじめ」根絶に取り組んできた。
- ・挨拶運動については努めた。
- ・整理・整頓や校内の美化に努めた。
- ・基本的生活習慣（制服の着こなし、積極的な清掃活動への取り組み、遅刻や欠席の減少）の徹底を図るなど規範意識の向上に努めた。

2 2012（平成24）年度輝く私学支援事業報告

- ・学校自己評価における「輝く私学支援事業」については、学校評価委員会（現役中学校教師2名、PTA会長・同副会長。同窓会会長）により評価委員会を開催し一定の評価を得た。

評価項目の精査、時代に沿った評価のあり方や、取り組みを情報発信する方法、新たな施策の検討などの提言を受けた。

- ・国公立大学進学コースポテンシャルティプラン

「輝く私学支援事業」を活用し、生徒の学力向上と教職員の資質向上を図った。東京大学合格にはわずかに及ばなかったものの難関大学合格をめざす質の高い教授法を学びそのノウハウを習得できたことは大きな成果と考えている。また、細かな分析と対策を講じ、当初予想を上回る28名の国公立大学合格者を出した。

- ・普通科一般進学コース・商業科基礎学力アッププラン

英語の週5時間の内2時間をeラーニング教材「すらら」を使って学び直しに当てた。内容は中学校の1年生からの復習で、1年間で3年までの復習をほぼ終了した。「すらら」の成果を検証するために「英語基礎の基礎テスト」と称して、中学校範囲の確認テストを実施し、8割以下の得点の生徒は合格するまで居残りをさせてやり直しテストを実施した。

2月に3名の教員で、学び直しの学習で成功している聖クリストファー高等学校を学校訪問し、具体的な取り組みについて研修する機会を得た。2013年度の本校の基礎学力向上指導の取り組みの参考としたい。

3 生徒募集対策

(1) 入学者300名（学則定員）確保

これまで300名を上回った次の年の入学者数は学則定員に届かなかったため、2年連続300名確保を目標に募集・広報活動を行った。その結果324名の入学者を得ることができ、前年度の364名に続き2年連続の目標達成となった。このことについては、進路実績や部活動の活躍はもとより、本校における教育活動全般の取り組みが、中学校や中学生およびその保護者に広く周知され評価された結果であると考えられる。受験者数を確保し実入学者につなげるため、今後さらに「きめ細かな指導」と「確かな進路実現」を実践し、地域社会に認められる学校運営を進めていきたいと考える。

(2) 重点施策

- ・中学校訪問

県内7地区を定期訪問し、中学校担当者との連携を密にして有効な情報を提供し信頼関係を構築した。特に県央地区（諫早・大村地区）からの入学者数の割合は毎年70%を越えており、学則定員確保のためにも現状を維持したい。特に大村地区は県下の生徒激減の中にあつてその傾向は比較的緩やかであり、市内には実業系私学が1校という環境も受験者数確保の好条件となり得る。離島地区においては生徒減や統廃合など厳しい状況下にあるが、対馬地区における中学校や本校保護者との信頼関係を堅持し確実な入学者数を保ちたい。福江地区、上五島地区は昨年度受験者数が増えた。（福江地区5名、上五島地区6名）入学者数は少ないものの訪問を通じて中学校に対して常に情報を発信することが何年か先の募集につながると思う。

- ・塾訪問

2011年度、12年度の入試において諫早高校、西陵高校の併願試験受験者上位層の入学

が少なかった。今年度諫早高校付属中学校が受験の年であることや、諫早地区中学生が前年度に比べて93名増えることもありこの2校には相応の倍率が出ると考えられる。受験先の最終判断は本人ではあるが、塾における分析と指導はその判断を大きく左右すると言える。きめ細かに訪問し、進学実績や指導内容をアピールして信頼関係を築く。

・オープンキャンパス・個別相談会

中学生にとって魅力あふれるオープンキャンパスの開催は高校を印象づける大きな取り組みのひとつである。FMおおむらのサテライト放送など新たな取り組みを行い、より印象付けることができた。一方で、第2回開催が近隣公立高校と同じ日程であったこともあり、延べ1824名と約200名の減少であった。個別相談会は開催回数を増やしより多くの生徒の面談を行った。(前年度に比べ28名の増加) 相談会参加者の約8割が入学した。

・メディア等の有効活用

情報メディアを利用した広報活動は、受験生やその保護者に対しても広く本校の情報を提供できた。大村地区を特化し「FMおおむら」での週1回の放送を通して生徒の生の声を伝えた。ローカル局ではあったがオープンキャンパス参加者の7%が聞いたことがあるに回答を寄せた。新たな情報発信の方法を取り入れるとともに、ホームページのリニューアルや広報用看板の新設を通してより旬な情報を提供したい。

これまでの「教育実績」とさまざまな施策を講じた広報活動は、2年連続300名確保という成果を生んだ。しかし、安定的にこのことを継続できる要素は極めて乏しいと言える。3年連続は高いハードルではあるが、教職員一丸の取り組みによりこの難局を乗り切りたい。

4 施設・設備整備実績

(1) 会議室改修工事

旧会議室と旧校友会室を合わせて一部屋にしたことにより、職員会議をはじめ各種会議、中学校教師対象入試説明会等が快適に行えるようになった。

(2) 学生食堂改修工事

スペースも広くなり、空調機や新しい机・椅子の導入により、全体的に明るく清潔感のあるくつろぎの場となっている。

(3) 生徒玄関改修工事

主として新しい靴箱の導入と玄関のドアの改修工事を行った。

(4) 校舎トイレ、学生食堂横トイレ改装工事

学生食堂横トイレの改修工事

(5) 講堂オルガンの新設

鎮西学院幼稚園

子どもたちの瞳の輝きがここから生まれます

1、教育の重点目標

“保育の原点がここにはあります”

(1) 保育のこころ・保育目標

- ①幼児教育は、人生の土台（人格形成）を育む、大切な基礎づくりと心に刻んで保育に努めた。
- ②キリスト教の精神に基づき、キリスト教保育を柱として、人を思いやり愛のことばで育むとともに、毎朝子ども達と教師が祈りをもって一日をスタートさせることができた。
- ③宗教行事の礼拝や親子礼拝も、山城大学宗教主事、鉄口高等学校宗教主任、各牧師先生方のご協力を得て実施できた事は感謝です。また、園ホールでの合同礼拝は園の教師で実施した。
- ④学院を包む広大で緑豊かな自然の中で、園長キャッチフレーズ『幼児にとっては遊びが仕事』という理念の下でのびのびと遊び、そこから社会性や協調性が培われ、他者への思いやりいたわりの気持ちも育つてくると信じている。それは、これからやってくる子ども達の人生の中で『生きる力』の礎になると確信し取り組んできた。

(2) キリスト教保育の充実

『保育のこころ』や『保育目標』に基づく保育活動、ピースチャペルでの「親子礼拝」を始め、「保育室での礼拝」で毎日祈りをもってスタートさせることができた。

また、「クリスマス礼拝祝会」等を通して、当園の特徴を保護者に理解してもらうように充実を図った。クリスマス礼拝祝会は園児数増加に伴い、大学のご協力を得て西山ホールで開催してきた。4年目になる。保護者からは好評で、継続したい。

(3) 学校評価と自己評価の推進

学校評価は保護者等より客観的・総合的な評価を受け、「開かれた園づくり」「安心と信頼の構築」の実現に向けて推進。自己評価は教職員に実施し、教育の再確認や改善のため推進している。

(4) 園だより・クラスだより・フォトレターを毎月発行し充実を図る

その月のカリキュラム（教育課程）や園・クラスの様子を知らせ、保護者に安心感を与えることで信頼関係の構築に寄与してきた。

(5) 園長体操教室の取り組み

他園にはない園長体操教室。「心と体の健康」を喜びの中で育てている。また、未就園児と親子のつどい『おひさまくらぶ』にも導入し好評である。

(6) 教職員のこころ（組織の基本）

※ 一日の始まりはお祈りから

1. 園長を中心に組織がまとまる心をもって行動できた。
2. 園の方針を理解し、その方針に添って行動できた。
3. 教職員が職場に誇りを持っている。
4. 笑顔で保護者とのコミュニケーションがとれた。
5. 教職員を引っ張れるよい主任がいる。
6. 教職員が笑顔に満ち溢れている。
7. 挨拶がスムーズにできた。
8. 掃除が行き届いた。

「教職員間の
共通理解・
共通実践」が
実行されて
いる。

“キリスト教保育の場にいる保育者は、教会の礼拝を肌で感じ、大切にされる心が求められている” この実現推進を図っている。

2、園児募集対策

『魅力あふれる幼稚園づくりを目指して』

- ・100名の定員確保を目標

園児募集対策の重点施策は基本的に『保育の充実』にある。教師の研鑽を積むことで、より良い保育の実践が展開されることを、全教職員が理解し汗をかいて努力してきた。

『園児数の推移』

2001年度（平成13年度）	83名
2002年度（平成14年度）	93名
2003年度（平成15年度）	92名
2004年度（平成16年度）	94名
2005年度（平成17年度）	80名
2006年度（平成18年度）	77名
2007年度（平成19年度）	<u>64名</u>
2008年度（平成20年度）	72名
2009年度（平成21年度）	106名
2010年度（平成22年度）	104名
2011年度（平成23年度）	109名
2012年度（平成24年度）	106名

（3ヶタの数値は最前線で頑張っている、教職員の汗の結晶である。）

(1) 広大で緑豊かな学院全体の活用強化で「心と体の健康」を推進

園内はもちろん、高等学校のグラウンド、大学のキャンパス、自然に恵まれた広大で緑豊かな自然環境の中で、「心と体の健康」を子どもたちに育てている。その主なる活用は「学院内遠足」を各学期に実施。また、「運動会」や「どんぐり拾い」・「探検ごっこ」・「散歩」も行っている。（これぞ鎮西学院幼稚園にしか出来ない保育であり行事である。）

(2) 遠足の充実

4月の歓迎親子遠足は、鎮西学院高校の大型バスを利用し現地まで行く遠足。3ヶ所を1年置きに実施。（干拓の里・白木峰・大村琴平公園）2011年度より3月のお別れ遠足は、年長組を園～県立総合運動公園（3km）まで徒歩に挑戦させている。年中組は市営野球場～（1.5km）に挑戦した。年少組は、バスで現地まで行き運動公園内を歩いた。

(3) 外注弁当導入

子育て支援の一環として、2010年度より週1回月曜日を全員外注弁当（給食）方式を完全実施。保護者に好評である。

(4) 未就園児と親子のつどいの推進（オープンキャンパスの一環）

保育主任主導で月3回おひさまくらぶ（2歳以上対象）実施。学期毎に1～2回グリーンクラブ（1歳以上対象）実施。子育て支援の一環として楽しいプログラムを充実させ、広報に結びつけるように進め、園児募集に大いに貢献している。

(5) 行事の充実と保護者会（ひかりの会）との連携推進

キリスト教行事の充実は元より、他の行事もすべて全力投球で進めている。また、保護者の参加型行事も増やし、幼稚園への理解・協力を深めてもらう絶好の機会となり、幼稚園の活性化にもつながっており、維持していきたい。

(6) 預かり保育の充実

子育て支援の一環としての、仕事をしておられるお母さん方への支援である。園児増で保育者2人体制で充実を図り定着してきた。

(7) インターネットによるブログの充実

ホームページにブログを開設し、更新を心掛けている。保護者や一般の方が子どもたちの園生活を見られており情報を地域へ発信してきた。また、幼稚園選びの一助にもなっており力を注いできた。（多い日のアクセス件数2013年1月23日891件で、関心の高さがうかがえる）

(8) ミニ講演会の取り組み

食育や子育て支援に役立つ話をお母さん方に発信し、文化活動の学びを深めることができた。

- ・子育て講演会（大村共立病院副院長 宮田雄吾先生）
- ・「いのちを育むナチュラル防災」（防災ファシリテーター あんどう りす）
- ・「おこづかい教室」（中川和彦）
- ・「食育」・・・きらきらくらぶ

(9) 制服を創立55周年の年2010年にリニューアル

2012年度で全園児揃った。

3、施設、設備及び環境整備

(1) 園児送迎用ミニバス（ワゴン車）

2008年度よりタクシー会社と業務委託を継続してきたが、経費面での事情で2011年度契約打ち切りとした。2012年度からは、園で中古ワゴン車を購入し運行を継続している。

(2) 廊下に雨が降りこむための防御策検討中

雨風がひどい日は廊下に雨が降り込み、子どもたちが朝の登園時や帰りの靴の履き替え時に濡れてしまい、迷惑をかけている。しかし、窓やビニールカーテン方式を考えても、景観の素晴らしさが損なわれるため苦慮している。

(3) 園庭整備の推進

①砂場及び泥遊び場の整備充実を図ってきた。

幼児教育の中で泥遊び・砂遊びほど重要なものはない。

②職員全員で園庭内遊具のペンキ塗りを3年おきに実施している。

③園庭美化のため芝を刈り美しい園庭にしている。緑の芝生の上で子どもたちを素足で遊ばせたい。また、花いっぱい運動を展開し、一年中花に囲まれ子どもたちが笑顔あふれる幼稚園として認知されてきている。

(4) 園舎老朽化への対応

築42年の建物。今後、建替えを視野に大きな検討課題である。

4、危機管理

“幼稚園は子どもたちの命を守る使命が絶対条件”

(1) 夜間の防犯管理は警備会社に委託し、警備体制をとっている。

(2) 幼稚園の遊具による事故は致命傷となるので、学期ごとに職員総出で点検している。（特に腐食等を要注意）

(3) 園児の避難訓練は年間を通して実施している。（各学期に2回実施。不審者、火災、地震）

各マニュアルも点検整備している。特に不審者対策では正門前の運行部に応援要請している。

(4) 職員室には『さす股』も常設している。

(5) 不審者対策の道具『ネットランチャー』を常設している。（ネットランチャーとは、鉄砲方式で一瞬にネットが3～4m飛び出し、身体に絡みつ়く画期的な防犯対策機器。）

(6) 不審者対策の道具『ガス噴射器（消火器の小型）』を常設し、これで不審者を撃退できる。